



DOCOMO TEAM DANDELION RACING

Team Release

第 2 レース レポート

2017/5/28 Rd-2 岡山国際サーキット

天候：晴れ 気温：27℃ 出走台数：19 台

観客数：27 日(土)7,100 人 28 日(日)11,000 人 合計 18,100 人

2 レース制で開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第 2 戦岡山国際サーキット。日曜日の Race2 は、ノックダウン第 1&第 2 予選とタイヤ交換義務付け 51 週の決勝で開催された。

午前中に行われた予選。第 1 予選では 11 位から 19 位が、第 2 予選で上位 10 台のグリッドが確定する。

ノックアウト第 1 予選、まず中古タイヤでコースコンディションとアタック確認を行った両ドライバーは、残り 7 分でニュータイヤを装着してコースイン、タイヤをウォームアップさせてアタックを開始したその時、残り時間 1 分というところでスピン車両が発生。赤旗中断となってしまふ。その後、セッション残り時間が 2 分 30 秒に延長されて再開。再びコースインし、アタック 1 発勝負となる。伊沢選手は 8 位で第 2 予選に進んだが、野尻選手は第 1 予選通過の 10 位に僅か 2/1000 秒差の 11 位で予選を終えた。

10 分のインターバルを経て迎えた第 2 予選。わずかにセットアップを修正した伊沢選手は、残り 6 分でコースイン。フィーリングは良かったもののポールからは 0.6 秒離され 7 位で予選を終えた。

Race2 スタート時の気温は 27 度。路面温度は 40 度を超え、午前中の予選とは全く違ったコンディション。しかし無給油でも走り切れる距離で、タイヤの摩耗も 50 周走り切っても問題ないというエンジニアの読みから、スタート次第で多くのマシンが 1~2 周目にピットインすることが予想された。

スタートで 2 ポジション順位を上げた伊沢選手は 2 周目にピットイン。続く 3 周目に野尻選手もタイヤ交換を済ませ、コース上にはピットインしていないグループ、ピットインを終えてタイヤ交換義務を果たしたグループの 2 つの隊列ができ、5 周目時点で伊沢選手はタイヤ交換済集団の 3 番手、野尻選手は 6 番手となる。

ここからピットインしていないグループとの見えない戦いが始まり、チームは両ドライバーにペースアップを指示。レース中盤 20 周目ごろからピットインする車両が増え始め、35 周終了時点で伊沢選手 5 番手、野尻選手 11 番手。しかし 38 周目、伊沢選手は 2 コーナーでクラッシュしレースを終えることに。これによりセーフティカーが導入される。

セーフティカー退去後、野尻選手はポイント圏内を目指し猛プッシュするが届かず、10 位で Race2 を終えた。



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

40：野尻 選手 予選 11 位 (第 1 予選 11 位) 決勝 10 位 HONDA 勢 3 位

2 レース制の岡山では、いつも以上に予選で好位置を得ることが重要だったのに、コンディションの変化やタイヤの使い方が上手くいきませんでした。

レースでは、第 1 レースと比較すればペースの改善も見られ、良い部分も悪い部分も理解できたと思います。

結果には残りませんでしたが、何かは見つけることが出来たと思います。

この週末の結果を紐解き、次戦に向けてしっかりと準備して、競争力を取り戻します。

41：伊沢選手 予選 7 位 (第 1 予選 8 位 第 2 予選 7 位) 決勝リタイヤ

満足いく状況ではないものの、予選、決勝と、調子を上げてくることが出来ました。

スタートも良く、ピット作業も完ぺきで、戦略も機能し、5 番手以上を目指していましたが、終盤でスピンしてしまい、応援いただいたファンやしっかりと準備してくれたチームに申し訳ない気持ちです。

ポイントを取り損ねたのが残念ですが、ポイント圏内で戦えるパフォーマンスは十分持っているので、富士に向けて更にこの好調を確実なものにしたいです。